

# 足利大学後援会報

第 61 号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

## ご挨拶



後援会 会長

榎田 守邦

在学年の保護者の皆様には日頃より、後援会活動のご協力、ご支援を頂き、誠にありがとうございます。

の支援活動にお預かりしました大切な後援会費を活用しています。

今年度、後援会会長に就任しました榎田守邦と申します。皆様からのご支援をいただきながら、ご子女・ご子息が充実した大学生活が送れるよう、努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

具体的には、学生助成費として、クラブ活動支援・学生自治会支援・大学祭援助卒業記念アルバム作成・学生災害障害保健補助など、教育助成として、就職関連補助・朝食補助・資格試験補助などを行っております。

員もわたらせ祭へ出店し、災害支援と共にわたらせ祭を賑わいの一助となりました。現在ではわたらせ祭をより賑わいあるものとすべく、役員一致団結で後援会ブースの出店を続けております。

最後になりますが、本年度から足利工業大学は足利大学として歩み出しました。そして工学部はこれまで通り大前キャンパスで、看護学部は本城キャンパスで学ぶ事となり、施設や環境がより充実致しました。今後さらに学生の皆さんが本学で学ぶことの喜びと誇りを持つて有意義な学生生活を送れることと思えます。会員の皆様には、更なるご理

長期にわたり、後援会に御尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございます。ありがとうございました。

### 《退会役員》

- 副会長：村上 喜美香 様
- 会 計：石井 こと江 様
- 顧 問：中里 裕 様
- 理 事：館野 多恵子 様
- 理 事：飯塚 典子 様
- 理 事：矢野 多加代 様

さて、後援会は会員と大学の連携を密にし、学生の勉強や福祉に寄与すること、および、会員と大学相互の親睦と大学の発展に貢献することを目的に組織されています。その総則のもと、会員の皆様に大学の近況や学生生活の状況などをご理解いただき、学生の皆さんがより充実したキャンパスライフを過ごせるよう、様々な事業を展開しており、そ

創立五十周年と  
言う節目の年でもあり、後援会より五十周年記念品としてスクールパスを寄附させて頂きました。

また、二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災の災害支援募金活動目的として後援会役



# 足利大学としての スタートに当たって



学長 庄司 和男

後援会の皆様には、日頃より教育支援、就職支援に対する援助をはじめ、様々なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学は昨年度、大学創立五十周年を迎え、共に平成二十六年に開設しました看護学部を完成年度を迎え、この平成三十年三月に看護学部一期生を無事に社会に送り出すことができました。これもひとえに、諸先輩方、そして皆様のおかげと心より感謝致しております。

また本学はこの四月より、大学名称を現在の「二学部体制」に相応しい「足利大学」と変更し、「建学の精神」である「和の精神」のもと、地域に必要とされる人材、心あるエンジニア、心ある看護師の育成に務めております。

本学は、平成二十七年に足利市、足利商工会議所、そして足利赤十字病院と包括連携協定を締結致しました。

その一環として、足利赤十字病院より旧病院跡地を無償譲渡いただき、大学創立五十周年記念行事の一つとして平成二十八年から約二年をかけて大学施設としてリニューアルし、この四月より足利大学本城キャンパス本館として使用を開始致しました。このことにより、念願でありました看護学部の一校地化も実現し、学修環境の充実を図ることができました。

なお、本城キャンパス本館の一、二階につきましては、一般市民の方もご利用頂けるコンビニエンスストアと食堂が設けられており、足利市、足利商工会議所そして足利赤十字病院と協力して地域コミュニティとしての役割を果たせるよう検討を進めております。

大前キャンパスにつきましても、本学と足利市との包括連携協定のもと、本学グラウンドを足利市に無償

貸与、そのグラウンドに足利市が人工芝の西部多目的運動場、愛称「あしスタ」を整備し、六月一日より市民の方々の利用が始まりました。本学の立地する足利西部地区の活性化に繋がることを期待しております。

現在の大学のあり方については、新聞等で報道されている通りであり、非常に難しいところがありますが、本学は、自立した運営体制

## 新たなスタート！ 一〇〇周年へ向けて



副学長兼工学部長 末武 義崇

後援会の皆様には、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

本学は、本年四月より、大学名称を「足利工業大学」から「足利大学」に変更いたしました。昨年度、工学部が創立五十周年を迎えたことに加え、平成二十六年にスタートした看護学部が完成年度を迎えたことを契機に、新たな時代への飛躍の意味も込めて決断した次第です。理事者や卒業生

の皆さまをはじめとして、創立以来本学をご支援いただいた関係者の方々のご理解とご協力に、改めて感謝申し上げます。

本学の創立五十周年に当たっては、昨年十一月十九日に、多くのご来賓をお招きして盛大に記念式典を挙行することができました。併せて、本学国際交流委員会の主催で、「Symposium of Globalization and Higher Education」をテーマに、記念シンポジウムを開催しま

した。シンポジウムにおいては、本学における再生可能エネルギーに関する研究の取り組みや国際交流の事例について、牛山理事長・庄司学長に講演していただきました。さらに、本学と三十年以上に亘って姉妹校交流を続けている、中国・浙江工業大学の李小年学長にも特別講演をお願いいたしました。

平成二十六年にスタートした看護学部も、本年三月に第一期生七十九名を送り出すことができ、四月には本城新キャンパスのオープニングセレモニーを挙行しました。看護学部の学生も新キャンパスで心新たに勉学に実習に励んでおります。本城新キャンパスとしては、市民の交流スペースとしての役割も果たしつつあります。

工学部の教育面では、少人数教育強化の一環として新入生の学習履歴調査が導入され、教育・学生生活を含めた総合的な学生支援が長尾教務委員長を中心に精力的に進められております。また、新たな時代に相応しいカリキュラムの創造も模索しているところでです。

学生指導の面では、退学の抑制が急務となっており、昨年度まで減少傾向を示していた退学率が昨年度急増し、増山前委員長から引き継ぎを受けた木村

新学生指導委員長を中心に、休退学者の分析を進めると同時に、退学防止策の見直しを図っております。大前キャンパス周辺の環境美化ボランティアの活動も継続中です。

就職指導につきましては、本学を取り巻く就職環境は引き続き極めて良好で、昨年度の内定率は一昨年度の九八・八%を上回る九九・五%でした。就職希望者のほぼ全員が就職できました。

工学部の求人状況は、今年の三月の時点で、求人数が一七八六社、有効求人倍率三六・五倍となっております。川中子就職指導委員長を中心に、こうした追い風をフルに活かしながら、学生諸君が質的にも満足できるような就職指導を心がけてお

ります。

大学PRにつきましても、入室入試企画委員長を中心に、本学の優れた点を受験生に広く知ってもらおうべく、精力的に広報活動を行っております。通常のオープンキャンパスに加え、昨年度から新たに導入したミニ・オープンキャンパスの機会も活用し、大学の教育・研究環境のPRに努めております。

創立以来五十年間、本学が築いてきた教育・研究の実績を踏まえ、やがて訪れる一〇〇周年に想いを馳せながら、地域に根差した高等教育機関として、本学が次の五十年間も発展し続けるよう努力して参ります。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

## 本城新校舎での新たなスタート



看護学部学部長 山門 実

光陰矢のごとしと申しますが、看護学部も平成二十六年四月の創設より満四年、すなわち、完成年度となり、本年三月には第一期生が全員無事卒業いたしました。そして、今春からは本城新

校舎での第二次ステージとして新たなスタートを切りました。

ところで巷では、サッカーのワールドカップでとてにぎやかで、フランスの優勝で終わりました。ことに

日本チームについては、ベスト十六へ残ることに固執したことが取り沙汰されましたが、中学・高校・大学と十二年間軟式テニスに励んでいたものとしては、いかに勝ち残るかの重要性を強く認識していることから、監督としては当然の采配であったと考えています。そしてこのワールドカップは四年に一度の試合です。前回のブラジル大会での予選敗北を経験している選手にとつては、四年間のつらい思いのもとベストをつくしたものと考えます。

この四年間の努力は、奇しくも看護学部第一期生も同様でした。四年間の学業に真摯に取り組み、見事、全員が看護学士となりました。また、全員の就職も決まり、一つの目標の達成でした。しかしながら、最重要課題であった看護師国家試験、保健師国家試験については、全員の合格を達成できませんでした。この結果については、私の教育目標である「自学自修」さらには「自学共修」が実現できなかったことによるものと考えています。

すなわち、大学のみならず教育の場においてはすべてで「自学」が原則であり、教員はその手助け、学修への道を示すことで、ともに学修する、「共修」するもの

## 組織的な教育改善への取り組み



工学部教務委員長 長尾 昌朋

後援会の皆様には、日頃から教育に関する様々なご支援を賜り、心から感謝いたします。

学生諸君にはアンケートなど様々な協力をいただいております。それを活用した事例を紹介させていただきます。新入生へのアンケートから、専門知識を勉強したいという期待の反面、新しい環境での勉強や友達作り、大学生活に対する不安を抱えていることが分かります。この不安を解消して円滑に大学生活を始めようするため、入学式の直後に一泊二日のフレッシュマンキャンプを実施しております。今年度は、最初に学生同士のグループワークを行い、その後で専門分野に関わる工場や施設を見

学するように順番を変えま  
した。会話のきっかけを早  
められた影響か、九割の学  
生から友達ができたとの回  
答をいただきました。また、  
新入生自身の自己評価では、  
発信力や自信、働きかけ力  
の項目が低いことは昨非同  
様ですが、これらの項目に  
加えて主体性や傾聴力を含  
む多くの項目が刺激されて  
おり、新入生は円滑に大学  
生活を始めたと思えます。  
このようにして始めた大学  
生活のリズムを崩さないよ  
うに、今年度から新入生に  
は学習時間やサークル・イ  
ベントなどの活動時間を記  
録してもらっています。こ  
れを活用して学習習慣を身  
につけてもらえればと思  
います。学生から貴重なデ  
ータをいただくことになり  
ますので、今後の教育改善  
に活用する所存です。



工学部学生指導委員長  
木村彰徳

### 学生指導・支援の取り組み

後援会の皆様には、日頃  
から様々なご支援をいた  
だきありがとうございます。  
工学部学生指導委員会は、  
学生への指導に関する事項  
を全般的に扱い、教育環境  
の充実を図ることを目的と  
しています。学生の生活・  
学習指導、カウンセリング、  
健康管理などについて取り  
組んでいます。今年度も引  
き続き、活動方針を立てて  
取り組んでいます。  
まず、学生の生活に関す  
ることです。学生たちの自

発的・自治的活動のクラブ  
活動、大学祭や球技大会な  
どの活性化を支援していま  
す。自治活動や部活動は社  
会人になる前に、学生同士  
または外部の方々との交流  
を通して、人間力やコミュ  
ニケーション能力を培うた  
めにも大きな役割をなして  
います。教職員からなるク  
ラブ部長会議も活用し、学  
生たちの活動への理解・指  
導・支援が行える体制づく  
りを行っています。また、ポ  
ランテニア活動にも積極的

そして、学業意欲の向上  
に関することです。学生は  
本来、将来の夢を実現する  
ために、自ら積極的に学び  
学問を修めるものですが、様  
々な理由から学業意欲の低下  
が起これば、クラス担  
任の充実、個別履修指導  
の強化、授業出席情報を利用  
した出欠指導システムや  
教育相談会を活用して、教  
職員が学生の不本意な休学  
や退学を未然に防ぐための  
早期発見と対処に取り組ん  
でいます。一方で、学業特  
待生制度に対して学業人物  
ともに優秀な学生の選考を  
行い、さらなる学業意欲の  
向上を支援しています。

### キャリア教育の見直し



就職指導委員長  
川中子 敬 至

昨年引き続き、委員長  
を拝命した川中子です。学  
生の進路に関して、できる  
限りのことはしたいと考  
えております。ご支援を賜  
りますよう、よろしくお願  
い申し上げます。

最終的な内定率も前年度並  
みになるのではないかと考  
えております。  
現在のところ、社会全体  
での人手不足は確かなよう  
ですが、米国のトランプ政権  
の保護主義と、東京オリンピ  
ック後の景気が、不安材料  
として見え始めました。現  
在の四年次生にとっては企  
業からの求人も多いですが、  
一年次生にとってはどうな  
るかが不明です。  
就職指導委員会では、昨  
年度は推薦書や内定の取り  
扱いを全学で統一し、複数  
の企業から内定をいただ  
いても良いように致しました。  
また、本年度は社会動向か  
らの影響をできる限り少な  
くするために、キャリア科  
目の見直しを始めました。  
従来から、本学では一年  
次からキャリア講座を年二  
回ずつ開いております。また  
三年次では合計七回の就職  
ガイダンスと、「自己表現I  
II」というキャリア科目を  
開設しております。自分自

既にくつつかの改善を行っ  
ております。  
また、秋には例年通りに  
東京と足利の二会場で、「就  
職情報交換会」が予定され、  
三月上旬には「学内企業セ  
ミナー」が予定されており  
ます。これらを含めて、三  
年次以下の学生への指導も、  
丁寧に進める所存です。  
いずれにしても、進  
路決定には、本人のガイダ  
ンス等への参加意志とともに  
保護者の皆様のご理解とご  
支援が必要です。よろしく  
ご配慮いただけますよう、  
お願い申し上げます。

### 質の高い看護学教育を



看護学部教務委員長  
沼田加代

さて、今春卒業の学生では、  
工学部での就職内定率が九九・  
五%、看護学部は100%と、  
過去に例のない数値を残し  
ました。ただ、看護学部の  
場合には看護師資格を取得  
できないと内定が取り消さ  
れてしまいますので、必ず  
しも100%の就職とはなら  
なかったようです。  
ところが本年度当初は、  
世の中全体が売り手市場で  
あるにもかかわらず、前年  
度に比べて就職活動が低調  
なように見えておりました。  
しかしこれは、学生が非公  
式に活動し、複数の会社か  
ら内定をいただき、承諾書  
の提出に迷ったためであ  
ったことであつたため  
えられます。承諾書にも期  
限がございますので、学生  
が内定企業を選択すれば、

この春、看護学部は、よ  
うやく第一期生を輩出した  
しました。これも、ひとえに  
後援会の皆様の教育・研究  
へのご支援の賜物と心から  
感謝申し上げます。看護系  
大学では、四年間の学業に  
おいて、実習は必須とされ  
ています。本学の実習をお  
受けくださっている実習施  
設も限られており、特に、

公衆衛生看護学実習は栃木  
県内遠方での実習もあり  
ます。遠方の実習は、後援会から、  
学生の宿泊補助を御手配い  
ただき、無事に実習が進め  
られていくことをこの場を  
お借りして感謝申し上げます。  
さて、全国の看護系大学  
はこの二十一年間で飛躍的  
に数を増やし、平成三十年四  
月現在、二六〇校を超えま

# 平成29年度 足利工業大学後援会収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## 収入の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
前年度繰越金	4,551,653	4,551,653	0	
会費	29,275,000	29,225,000	△ 50,000	1,169名分(@25,000円)(工学部840名、看護学部329名)
雑収入	60,000	45,400	△ 14,600	学生災害傷害保険異動返還金
計	33,886,653	33,822,053	△ 64,600	

## 支出の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	2,570,000	1,792,731	△ 777,269	
会議費	1,400,000	1,008,461	△ 391,539	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	240,000	△ 60,000	事務費一般
印刷費	250,000	162,000	△ 88,000	封筒印刷代
通信費	620,000	382,270	△ 237,730	後援会総会通知発送費・会報発送費
2 学生助成費	19,900,000	18,185,595	△ 1,714,405	
学生研究補助費	900,000	63,080	△ 836,920	公衆衛生看護学実習宿泊補助
クラブ援助費	9,000,000	8,364,165	△ 635,835	クラブ活動援助費
学生活動費	6,000,000	6,065,680	65,680	学生自治会援助金・球技大会援助
卒業記念費	2,500,000	2,268,000	△ 232,000	卒業アルバム工学部245冊看護学部105冊
保険料	1,500,000	1,424,670	△ 75,330	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	3,200,000	2,642,510	△ 557,490	
就職推進補助費	2,000,000	1,964,170	△ 35,830	学生向け「インターンシップガイド」350部 他
厚生事業費	1,000,000	543,340	△ 456,660	朝食補助・健康推進メニュー補助・資格取得補助 他
教育環境援助費	200,000	135,000	△ 65,000	保健室用ロールパテーション 他
4 慶弔費	700,000	346,300	△ 353,700	入学式等献花代 香典 他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 積立金	7,129,220	7,129,220	0	50周年記念品スクールバス代金積立
7 予備費	287,433	0	△ 287,433	
8 次年度繰越金	0	3,725,697	3,725,697	
計	33,886,653	33,822,053	△ 64,600	

## 積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	6,000,000
一般会計より	7,129,220
合計	13,129,220
支払金額	13,129,220
残高(繰越金)	0

上記のとおり相違ありません。

平成30年3月31日

足利工業大学後援会 会計 石井 こと江

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

平成30年5月26日

足利工業大学後援会 監事 榑田 守 邦  
監事 横塚 秀 子

足利工業大学創立50周年記念事業記念品 (ISUZU中型スクールバス) 支払い総額 ¥13,129,220円



看護学部学生指導委員長 栗田 佳江

## 充実したキャンパスライフのために —更なるご支援のお願い—

在学生の保護者の皆様には、平素から後援会活動にご支援・ご協力を頂まして、誠に有難うございます。大変感謝いたしております。

今年度から看護学部の学生指導委員長を拝命いたしました栗田佳江と申します。多々至らないことがあるかと存じますが、精一杯努めてまいります。ご支援のお願いいたします。

平成三十年四月より本学は足利大学と名称を変更いたしました。

在学生の保護者の皆様には、平素から後援会活動にご支援・ご協力を頂まして、誠に有難うございます。大変感謝いたしております。

今年度から看護学部の学生指導委員長を拝命いたしました栗田佳江と申します。多々至らないことがあるかと存じますが、精一杯努めてまいります。ご支援のお願いいたします。

平成三十年四月より本学は足利大学と名称を変更いたしました。

## 平成30年度 足利大学後援会役員名簿

役職	氏名	所在市	学生所属学科・学系・分野	学年
1 会長	榑田 守 邦	太田市	建築・土木	3年
2 副会長	横塚 秀 子	佐野市	建築・社会基盤	4年
3 副会長	川崎 浩 司	さいたま市	建築・土木	2年
4 副会長	若井 豊	栃木市	看護	2年
5 会計	和田 芳 江	足利市	看護	4年
6 監事	片山 清	佐野市	自然エネルギー・環境	4年
7 監事	細谷 陽 子	太田市	看護	4年
8 顧問	海老澤 貴 志	伊勢崎市	看護	4年
9 わたせ祭幹事	麦倉 美智子	足利市	建築・社会基盤	4年
10 わたせ祭幹事	亀田 節 子	佐野市	機械	3年
11 わたせ祭幹事	前田 久美子	足利市	看護	3年
12 理事	岩崎 理 恵	足利市	生命システム	4年
13 理事	鈴木 香 里	結城市	情報システムデザイン	4年
14 理事	塚本 雅 子	伊勢崎市	情報システムデザイン	4年
15 理事	小林 禎	みどり市	機械・電気工	4年
16 理事	石井 俊 之	足利市	電気電子	3年
17 理事	工藤 英 人	桐生市	建築・土木	3年
18 理事	高山 和 久	邑楽郡	看護	3年
19 理事	染谷 勉	結城市	電気電子	2年
20 理事	石野 純 子	足利市	システム情報	2年
21 理事	渡辺 恵 美	佐野市	システム情報	2年
22 理事	市川 克 弘	高崎市	建築・土木	2年
23 理事	猪爪 利 香	足利市	看護	2年
24 理事	三田 恵理子	太田市	看護	2年
25 理事	栗原 知 子	足利市	システム情報	1年
26 理事	田島 由有子	足利市	システム情報	1年
27 理事	松苗 基 子	伊勢崎市	システム情報	1年
28 理事	井口 早 苗	下野市	看護	1年
29 理事	柿沼 一 義	太田市	看護	1年
30 理事	吉原 一 夫	足利市	看護	1年

学生においては、念願のキャンパスライフが実現できないままに卒業してしまう学生が少なくありません。そのような状況に悩む学生は、多くいます。後援会の皆様のご支援が、学生の夢の実現に大きく貢献しています。

学生の中には、就職先が決まらずに悩んでいる学生もいます。そのような状況に悩む学生は、多くいます。後援会の皆様のご支援が、学生の夢の実現に大きく貢献しています。

学生の中には、就職先が決まらずに悩んでいる学生もいます。そのような状況に悩む学生は、多くいます。後援会の皆様のご支援が、学生の夢の実現に大きく貢献しています。

# 平成30年度 足利大学後援会予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

## 収入の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	3,725,697	4,551,653	△ 825,956	
会費	28,925,000	29,275,000	△ 350,000	1,157名分(@25,000円)(工学部830名、看護学部327名)
雑収入	60,000	60,000	0	学生災害傷害保険異動返還金
計	32,710,697	33,886,653	△ 1,175,956	

## 支出の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,570,000	2,570,000	0	
会議費	1,400,000	1,400,000	0	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	300,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	620,000	620,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・AIT通信発送費 他
2 学生助成費	21,100,000	19,900,000	1,200,000	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	10,000,000	9,000,000	1,000,000	クラブ活動援助費
学生活動費	6,000,000	6,000,000	0	学生自治会援助金・大学祭援助・球技大会援助 等
卒業記念費	2,700,000	2,500,000	200,000	卒業記念アルバム作成費(360冊×7.2千円=2,592千円)
保険料	1,500,000	1,500,000	0	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	5,000,000	3,200,000	1,800,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	2,000,000	1,000,000	1,000,000	朝食補助・情報処理資格試験補助 他
教育環境援助費	1,000,000	200,000	800,000	学内環境設備費
4 慶弔費	700,000	700,000	0	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	3,000,000	7,129,220	△ 4,129,220	100万円研修旅行積立金 200万円周年事業積立金
7 予備費	240,697	287,433	△ 46,736	
計	32,710,697	33,886,653	△ 1,175,956	

## 積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	0
一般会計より	3,000,000
合計	3,000,000

去る六月十六日(土)に本城新キャンパス「月見ヶ丘ホール」において平成三十年後援会総会を開催いたしました。昨年大学創立五十周年を迎えるとともに、平成二十六年に開設した看護学部も完成年度を迎え、工学部と看護学部の二学部体制が確立したことから、平成三十年四月大学名称を「足利大学」へと変更されましたので、今回の総会審議事項に「大学名称変更に伴う後援会名称の変更について」が審議され、本会名称が「足利大学後援会」となりましたのでご報告いたします。また、平成二十九年事業報告並びに決算報告及び会計監査報告(案)予算(案)が審議され、紙面のとおり承認されましたのでご報告いたします。

特別講演については、看護学部学部長 山門實による「足利長寿研究の概要」の講演会【研究対象：足利市民の内、要支援二未満の一〇〇歳以上の九十八名(平均年齢は一〇二歳)について、血中のアミノ酸濃度の測定ならびに参加ストレス度の測定から、将来の生活習慣病の発症を予知し、その修正指導により発症を予防し、健康寿命の延伸をはかる】をいただきました。

十月六日、十月八日わたらせ祭(大学祭)が開催されます。わたらせ祭は、日頃の学生の研究成果やクラブ活動の発表の場となります。作品の展示や趣向を凝らした企画で大学内を盛り上げますので、秋のこの三日間どうぞ足利大学大前キャンパスへお越しください。

後援会への疑問・質問やご要望などがおありの方は、後援会事務局の学生支援課(TEL〇二八四一六二一〇九五〇)及び会計課(TEL〇二八四一六二一〇八一〇)へご連絡なくお問い合わせください。

事務局便り